

2025 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2025年度春夏学期アンケート回答期間：2025年7月7日（月）～8月7日（木）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、69.9%であった（参考：2024年度春夏学期 69.8%、同年度秋冬学期 64.8%）。

2025年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	8	377
	行動系科目	9	119
	社会人間系科目	2	63
	教育系科目	9	164
	共生系科目	5	89
大学院科目	共通科目	6	128
	行動系科目	9	72
	社会人間系科目	5	36
	教育系科目	14	100
	共生系科目	3	26
G30科目		6	73
計		76	1247

回収数 1247 / 受講登録者数 1784 = 回収率 69.9%

- ※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
- ※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2021年度春夏学期の授業改善アンケート回収率22.9%から、2022年度春夏学期は72.2%（49.3ポイント上昇）、2023年度春夏学期は72.9%（50.0ポイント上昇）となり、大幅に改善をみせた。2025年度春夏学期も69.9%と例年並みに高い回収率となった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が4.36（前年度4.36）と前年同様に高い値となった。問9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」については、「そう思う」と回答している学生の割合が1.7ポイント減少しているものの（62.7%→61.0%）、「強くそう思う」と回答している学生の割合は2.7ポイント増加している（27.1%→29.8%）。このことから、専門知識の習得を求める学生の要望に応え、さらなる満足度の向上につながるような改善が必要と考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が84.9%（2023年度87.9%、2024年度83.0%）と例年並みに高い値となったが、2021年度春夏学期94.6%よりも大幅に減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった2021年度の結果と、対面授業やブレンド授業へと徐々に移行してきた2022年度以降の結果は、単純に比較できないとはいえ、出席率の向上は今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは22.6%となり、マークシート方式に変更後最高の値となった（2023年度22.5%、2024年度21.9%）。2022年度春夏学期11.6%から大幅に増加していることから、この項目は改善傾向にあると判断できる。この点に関しては、オンライン授業が中心であった2020-2021年度のあいだに、授業時間外の学習を促すさまざまな対策・工夫が講じられ、そうした取り組みが現在も一定の効果を挙げていると考えられる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が75.7%（2023年度70.8%、2024年度70.7%）と前年度よりも5.0ポイント上昇した。ただし、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が16.4%（2023年度19.5%、2024年度17.8%）、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が35.9%（2023年度39.7%、2024年度36.1%）といずれも減少傾向にある。これらの項目は、問9の学問的知識の習得および問10の満足度とも結びついていることから、授業で扱う題材選定や授業の進行形式についてさらなる改善が求められる。

以下より、2025年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

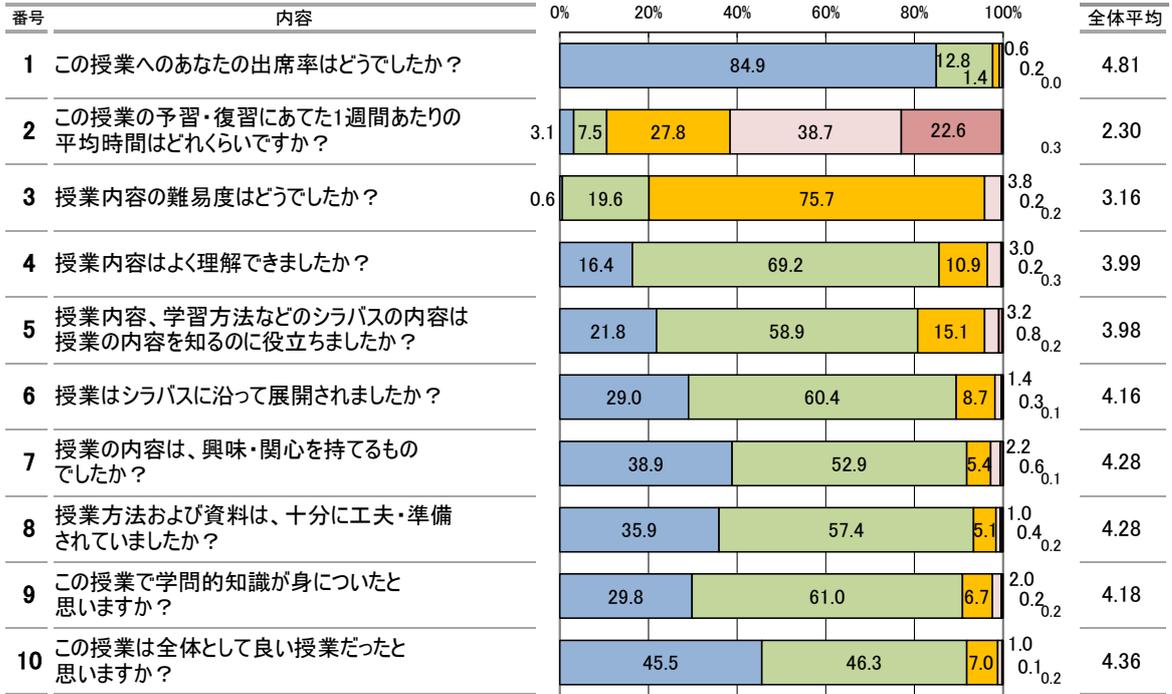
- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

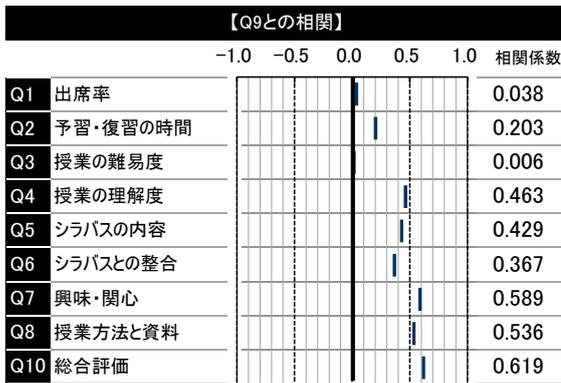
授業改善アンケート

大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
2025年度春学期

全体集計	履修者数	1784
	回答数	1247
	回答率	69.9%

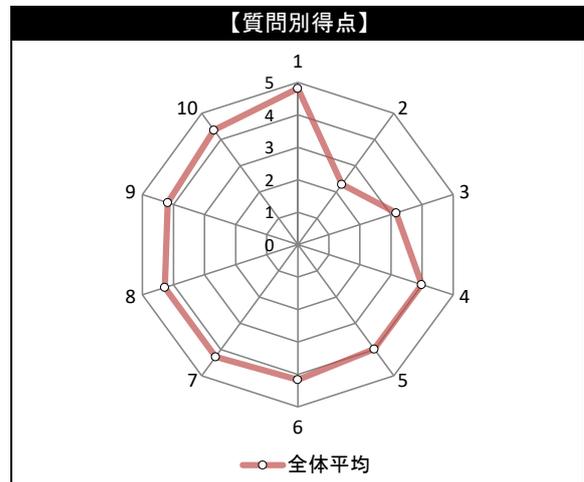


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	不明 (無回答を含む)
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート 2025年度春学期

学系別集計【全体】

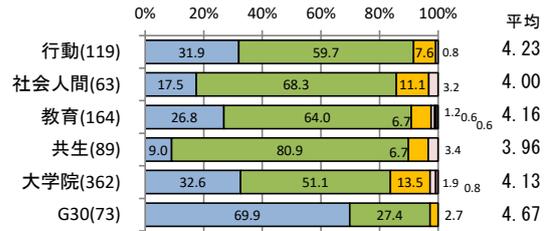
※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全く 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良くなかった	かなり 良くなかった	

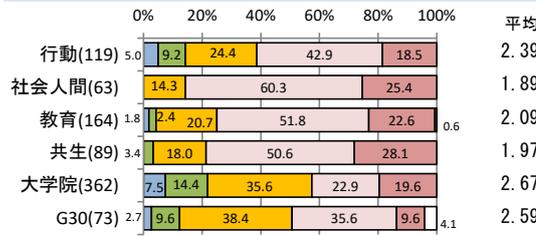
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



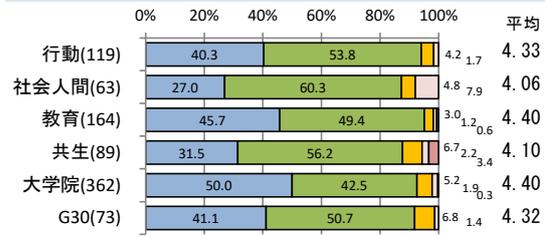
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



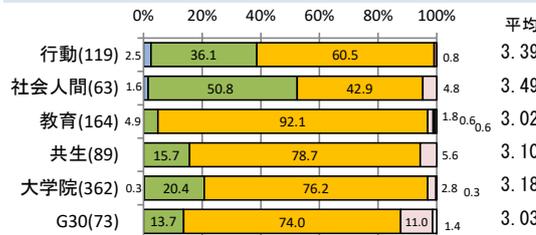
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



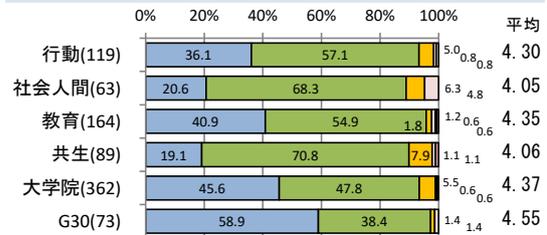
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



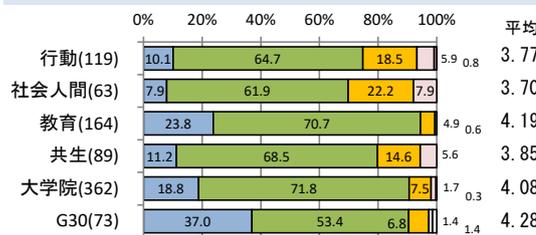
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



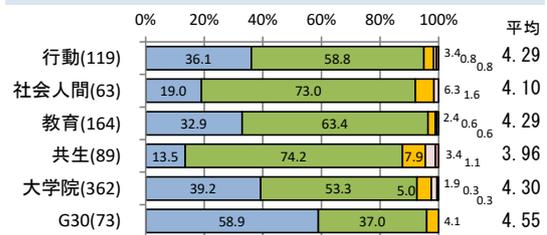
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



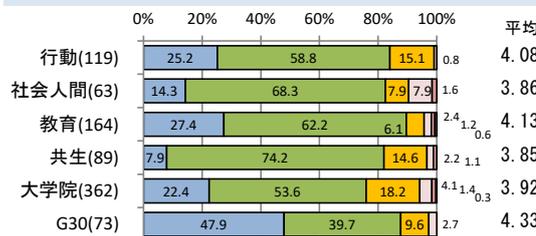
4. 授業内容はよく理解できましたか？



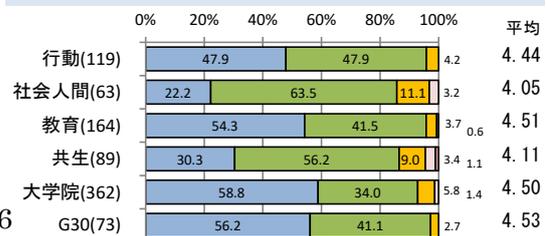
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 96 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 45 科目であり、平均値 4.36 を上回ったのは 26 科目であった。

2025 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	自然地理学	11	4.82
2	教育・学校心理学	20	4.70
2	比較教育制度学	10	4.70
4	共生の人間学 I	13	4.62
5	関係行政論	15	4.60
5	教授・学習過程論	10	4.60
7	教育思想史	21	4.57
8	共生の技法 II	14	4.50
8	人間科学特殊講義 III	34	4.50
10	心理学的支援法	29	4.45

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	家族社会学特講	13	4.85
1	心理支援法特講（心理支援に関する理論と実践）	13	4.85
3	安全行動学特講 I（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	20	4.80
4	統計解析の理論と実践	18	4.78
5	教育社会学特講	11	4.73
6	精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	18	4.61
7	高等教育論特講 I	11	4.55
8	地域共生学特講 I（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	18	4.50
9	認知行動工学特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	14	4.43
10	臨床死生学・老年行動学特講 I（福祉分野に関する理論と支援の展開）	19	4.32

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

学部の講義科目「認知心理生理学（神経・生理心理学）」は、「内容の理解」以外は、すべての項目で全体平均とほぼ同じか高く評価されていた。「難易度」について、回答した33名中「難しすぎる」は0名、「やや難しい」が22名、「適切」が11名であったので、努力は必要だが取り組みやすい内容に改善されているといえる。大学院の講義科目「基礎心理学特講Ⅰ」は、例年どおりすべての項目で平均を上回っており、適切に実施されていることが確認できた。

西村 剛

行動形態学

授業内容がやや難しいという割合が大きかった。見返してみると、看護系の解剖生理学の講義レベルに近いものであったと思われる。次回は解説をより丁寧にするこゝで、適切な理解へと繋げるよう改善を試みる。ただ、満足度は全体平均を上回っているのゝで、より高い満足度を達成できるように努めたい。

生物人類学特講Ⅰ

受講生が一人ということゝで、個人のレベルに合わせた丁寧な授業が展開できていると評価していただいたと理解している。人数に合わせて、授業内容は変えていきたい。

山本 倫生

一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思っています。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

中井 宏

今年度、対象となった講義（産業・組織心理学）については概して高評価であったと捉えています。そのため、次年度に向け、大きな改善等は考えていません。

こんなことを言うのもどうかと思いますが、卒業後に「学生時代に受けた授業を覚えていますか」と尋ねられても「恥ずかしながら覚えていない」という子がほとんどのはずです（データは取ったことないですが）。が、「そういえば、学生時代にこんな授業聞いたな」とちょっとでも覚えてもらえるような講義を次年度以降も継続したいと思ひます。

篠原 一光

アンケートの結果から全体として問題なく授業ができていたと思われる。今後もより有益な授業を実施できるよう努めたい。

【教育学系】

岡部 美香

ある科目のシラバスを他の科目と混同し、間違えて記載していたようです。たいへん失礼いたしました。以後、気をつけたいと思います。それにもかかわらず、授業そのものは意義のあるものとして楽しんでもらえたようで、ホッとしています。今後も、そのように受けとめてもらえるように努めたいと思います。

佐々木 淳

臨床心理学特講 I

アンケート結果を拝見して、一定の教育効果があったものと安心しております。今後も授業内容の向上につとめたいとおもいます。

野村 晴夫

授業時間内の体験を主目的とした授業ですが、時間外の予復習のさらなる充実を図ります。

藤川 信夫

予習・復習のポイントが平均値と同様に低いため、今後工夫をしたいと思う。

管生 聖子

回答くださった受講生がそれぞれに学びを深めるのに役立ったようで何よりです。

【共生学系】

渥美 公秀

来年度は、もう少し CLE をうまく使いたいと思いました。検討します。

【その他（学系外）】

*国際交流室

安元 佐織

英語で議論をするのが初めての受講生もいたと思いますが、多くの受講生が積極的に議論に参加しようと試みてくれたことによって、とても有意義な講義になったと思います。受講生の皆さんに感謝しています。